

20 花崗岩分布地におけるガレ場

写真



解説

高梁市成羽町の山腹斜面におけるガレ場。径が30cm~1.5mの花崗岩の礫、岩塊・転石が山腹を埋めつくしている。当斜面の傾斜角は25~35°であるが、トップリング、土石流・落石崩壊の度重なる発生により形成されたものと考えられる。このようなガレ場が豪雨や強い地震動にみまわれると、礫や転石の再移動に伴って土砂災害が生じる場合がある。

提供者 氏名：内田 澄夫 所属 (株)荒谷建設コンサルタント